資料２

諸室構成（案）・施設規模（案）について

構成･目的･協議事項について

- 本資料の構成を以下に示します。
- なお、本資料でお示しする諸室構成･施設規模の複数案については、基本構想段階において、１案に決めることはせず、今後の基本計画で検討すべきパターン（フレームワーク）を決めていくことを目的としています。

本資料の構成	内容
１．複数案の設定方針	･検討ロジック ･指標について
２．基本諸室構成の設定	･郷土の森総合体育館と生涯学習センターの既存諸室 ･基本諸室構成の設定の考え方
３．指標に基づく検討	･指標ごとの分析 ･「諸室構成」と「諸室規模」の２つの軸への反映の検討
４．複数案の提示	･指標による分析のまとめ ･「諸室構成」･「諸室規模」パターンの設定 ･複数案（パターン）の提示
５．参考イメージ	

協議事項

- 重要視すべき指標とそれによる諸室構成の修正点について
- 視察等を踏まえ、既存諸室における構成や規模について
- 設定した諸室構成や諸室規模を導入していくに当たって、留意すべき事項について
- 複数案の網羅性について

１．複数案の設定方針

複数案の設定方針：検討ロジック

- 複数案の設定に関する検討ロジックを以下に示します。
- 2つの検討軸により、各指標に基づく検討を行い、複数案を設定します。

Step1. 2つの検討軸の設定

複数案の設定に向けて、「諸室構成」と「諸室規模」の2つの検討軸を設定する

諸室構成 × 諸室規模

Step2. 基本諸室構成の設定

『府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画（以下、適正化計画）』に基づき、「郷土の森総合体育館」と「生涯学習センター」の重複する機能は機能統合の対象とするとともに、新たに生まれる諸室を抽出して、基本諸室構成を設定する

郷土の森総合体育館

＋

生涯学習センター

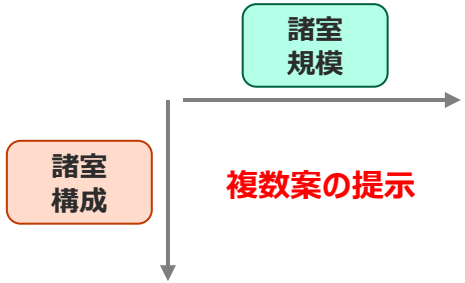
Step3. 指標に基づく検討

右記の指標の分析により、2つの検討軸に基づいて検討条件の整理を行う

- a.稼働率
- b.マルチ対応可能性
- c.周辺施設とのバランス
- d.アリーナ用途・規模
- e.市民ニーズ

Step4. 検討マトリックスによる複数案の提示

2つの検討軸によりマトリックスを形成し、複数案を提示します



複数案の設定方針：指標について

- Step3の各指標について、内容と根拠を整理しました。
- 本資料９ページ以降において、各諸室に対する検討結果を示します。

指標	内容	根拠
a.稼働率	稼働率の低い諸室は機能集約化の検討対象とする	適正化計画、 稼働率データ
b.マルチ対応可能性	単一用途ではなく複合用途の効率的な利用の可能性がある諸室は機能集約化の検討対象とする	適正化計画、 ヒアリング調査、 類似事例調査
c.周辺施設の供給バランス	市内及び周辺施設において類似する機能又はサービスの供給がある場合は機能集約化の検討対象とする	適正化計画、 周辺施設調査
d.アリーナ用途・規模	「みる」スポーツの機能の導入を見据えたアリーナの用途や形状の検討とともに、諸室規模の設定を行う	マーケット調査、 類似事例調査
e.市民ニーズ	市民や競技団体のニーズを把握し、諸室構成や諸室規模の設定に反映する	競技団体アンケート調査、 市民アンケート調査、 利害関係者等の意見聴取

２．基本諸室構成の設定

文化･スポーツ施設配置等適正化計画を踏まえた生涯学習センターとの機能統合の考え方

- 文化･スポーツ施設配置等適正化計画において記述されている郷土の森総合体育館と生涯学習センターの機能集約や移転･廃止の考え方について、諸室ごとに情報の整理を行いました。
- 生涯学習センターにおける体育室、トレーニング室、フィットネス･ラボ、ミーティング室、保育室、レストラン、管理事務室は、既存の郷土の森総合体育館の既存諸室との機能統合が可能であると考えられます。

郷土の森総合体育館 （13,228㎡）		
既存諸室機能	備考	凡例
第1体育室	観客席928席	□※1
第2体育室	観客席158席	A
トレーニング室	ウエイトトレーニング機器他	B
第1武道場	柔道他（試合場２面）	
第2武道場	剣道他（試合場２面）	
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)	
エアーライフル場	エアー、ランニングボア、ビーム	
相撲場	土俵2面	
卓球室	卓球台8台	
ミーティングルーム	仕切り壁あり	C
幼児体育室	幼児の自由遊び	D
レクリエーションホール	ヨガ、ダンス等	E
会議室	第1、第2	
研修室		
レストラン		F
管理事務室		G
（新） 多目的グラウンド	総合的な市民スポーツの拠点のため	□

生涯学習センター（約4,000㎡：学習･宿泊施設を除く）			
既存諸室機能		備考	凡例
【学習施設】	講堂（２９３席）、研修室（６室)、語学室、パソコン学習室、工房（２室)、陶芸室、工作機器室、美術室、版画室、和室（２室)、音楽室（３室)、スタジオ、小ホール、自習室	中央文化センター周辺エリアに移転	× （移転）
【宿泊施設】	宿泊施設		× （廃止）
【体育施設】	体育室		A
	温水プール		□
	トレーニング室		B
	フィットネス･ラボ		E
	ミーティング室		C
【その他】	保育室		D
	レストラン		F
	管理事務室		G
【図書館】	図書館	地区図書館	□

凡例

A～G：新総合体育館において**機能重複**が想定されるペア

□：新総合体育館に**新たに生まれる機能**

×：移転または廃止（適正化計画）

※１）「みるスポーツ」機能を付加

基本諸室構成の設定

- 前ページに基づき、諸室の機能統合について整理し、検討の土台となる基本諸室構成を設定しました。
- 新たな付加価値として付帯機能、また防災機能として避難所としての機能についても整理します。

郷土の森総合体育館 （13,228㎡）		+	生涯学習センター（約4,000㎡：学習・宿泊施設を除く）		=	基本諸室構成
既存諸室	規模		既存諸室	規模		
第1体育室	1,512㎡（928席）		–	–		**メインアリーナ**
第2体育室	971㎡（158席）		体育室	912㎡		**サブアリーナ**
トレーニング室	400㎡		トレーニング室	375㎡		**トレーニング室**
第1武道場	495㎡、柔道他		–	–		**武道場１**
第2武道場	495㎡、剣道他		–	–		**武道場２**
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)		–	–		**弓道場**
エアーライフル場	234㎡		–	–		**エアーライフル場**
相撲場	277㎡、土俵2面		–	–		**相撲場**
卓球室	360㎡、卓球台8台		–	–		**卓球室**
ミーティングルーム	48㎡		ミーティング室	44㎡		**ミーティングルーム**
幼児体育室	100㎡、幼児の自由遊び		保育室	54㎡		**キッズスペース**
レクリエーションホール	377㎡		フィットネス・ラボ	93㎡		**スタジオ**
会議室	第1=56㎡、第2=57㎡		–	–		**会議室**
研修室	57㎡		研修室	50㎡×３室、82㎡		**研修室**
–	–		図書館	497㎡		**図書館**
–	–		温水プール	大プール、小プール		**温水プール**
レストラン	約200㎡		レストラン	185㎡（80席）		**飲食スペース**
管理事務室			管理事務室			**管理事務室**
–	–		–	–		**付帯機能**
–	–		–	–		**防災機能**

３．指標に基づく検討

a-1.稼働率①郷土の森総合体育館

第2回協議会資料の再掲

- 稼働率に関するデータを示します（第2回協議会資料より引用）。
- **エアーライフル場・相撲場・ミーティングルーム・幼児体育室**については、**稼働率が低い**状況となっています。
- また、適正化計画において、エアーライフル場・相撲場は「稼働率が低い傾向があることから、多機能化等を検討」という指摘がされています。

郷土の森総合体育館						a.指標の分析
既存諸室機能	備考	稼働率 (H29～R元)	団体利用率 (R4)	自主事業 利用者数(R4)	一般公開時 利用者数(R4)	
第1体育室	1,512㎡、「みる」ｽﾎﾟｰﾂ付加	79.9%	60.4%	2,464人	10,528人	稼働率は高い
第2体育室	971㎡	85.8%				
トレーニング室	400㎡	-	0.0%	0人	14,341人	一般公開利用が多い
第1武道場	495㎡、柔道他	88.3%	49.9%	191人	2,142人	稼働率は高い
第2武道場	495㎡、剣道他	86.8%				
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)	74.0%	29.4%	0人	2,148人	稼働率は高い
エアーライフル場	234㎡	2.4%	6.2%	0人	752人	稼働率は低い
相撲場	277㎡、土俵2面	4.2%	1.9%	66人	444人	稼働率は低い
卓球室	360㎡、卓球台8台	1.1%	0.0%	0人	10,211人	一般公開利用が多い
ミーティングルーム	48㎡	1.1%	24.1%	0人	0人	稼働率は低い
幼児体育室	100㎡、幼児の自由遊び	0.4%	0.9%	57人	820人	稼働率は低い
レクリエーションホール	377㎡	75.7%	31.3%	7,663人	527人	稼働率は高い
会議室	第1=56㎡、第2=57㎡	-	10.8%	0人	0人	
研修室	56㎡	-	-	-	-	
管理事務室		-	-	-	-	

※団体利用と自主事業利用の合計が稼働率となっています

a-2.稼働率②生涯学習センター

第2回協議会資料の再掲

- 稼働率に関するデータを示します（第2回協議会資料より引用）。
- **ミーティング室・保育室**については、**稼働率が低い**状況となっています。

生涯学習センター						a.指標の分析
既存諸室機能	備考	**稼働率** (H29～R元)	**利用者数** (R4)	**主催事業利用者数**(R4)	**一般公開時利用者数**(R4)	
体育室	912㎡	96.7%	19,680人	-	-	稼働率は高い
温水プール	大プール、小プール	79.6%	2,154人	12,911人	36,842人	稼働率は高い
トレーニング室	375㎡	-	22,715人	-	-	一般公開利用が多い
フィットネス・ラボ	93㎡	72.1%	35,268人	-	-	稼働率は高い
ミーティング室	44㎡	8.0%	-	-	-	稼働率は低い
保育室	54㎡	11.7%	-	-	-	稼働率は低い
レストラン	185㎡（80席）	-	-	-	-	
管理事務室		-	-	-	-	
図書館	497㎡	-	33,892人(R元)	-	-	

b.マルチ対応可能性

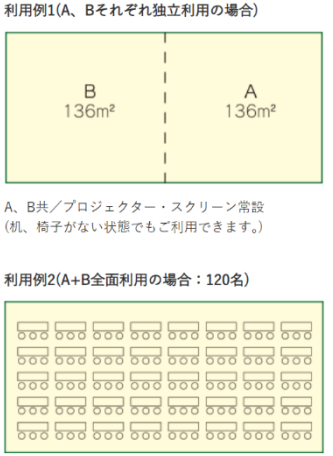
第2回協議会資料の再掲

- 武道場とレクリエーションホールについては、単一機能ではなく、**多機能運動室**として集約できる可能性があります。
- また、武道場は大会・試合の会場としての機能～練習用のみの機能まで、ボリュームに検討の幅があります。
- ミーティングルームと会議室・研修室については、**会議室として集約**しつつ、間仕切り等を使用することで、施設規模を抑制することができる可能性があります。

郷土の森総合体育館		
既存諸室機能	備考	**b.指標の分析**
第1体育室	観客席928席	
第2体育室	観客席158席	
トレーニング室	ウエイトトレーニング機器他	
第1武道場	柔道他（試合場２面）	多機能運動室として集約できる可能性
第2武道場	剣道他（試合場２面）	多機能運動室として集約できる可能性
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)	
エアーライフル場	エアー、ランニングボア、ビーム	
相撲場	土俵2面	
卓球室	卓球台8台	多機能運動室として集約できる可能性
ミーティングルーム	仕切り壁あり	会議室を集約して縮小できる可能性
幼児体育室	幼児の自由遊び	
レクリエーションホール	ヨガ、ダンス等	多機能運動室として集約できる可能性
会議室	第1、第2	会議室を集約して縮小できる可能性
研修室		会議室を集約して縮小できる可能性
管理事務室		

多機能な利用を想定した武道場
（横浜武道館）

出所：施設HP



柔軟なサイズ調整ができ、スポーツ利用を想定したフローリング仕様の会議室・研修室（エスフォルタアリーナ八王子）

出所：施設HP

c.周辺施設の供給バランス

第2回協議会資料の再掲

- 適正化計画において記述されている周辺施設との機能調整の可能性について情報を抽出しました。
- **トレーニング室**については、市内で民間事業者によるサービス供給が見られる点が指摘されています。
- **温水プール**については、近隣に東京都のプールがあることが指摘されています。

郷土の森総合体育館		
既存諸室機能	備考	**周辺施設との機能調整**
第1体育室	観客席928席	
第2体育室	観客席158席	
トレーニング室	ウエイトトレーニング機器他	→市内でも民間事業者で多く提供されている
第1武道場	柔道他（試合場２面）	
第2武道場	剣道他（試合場２面）	
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)	
エアーライフル場	エアー、ランニングボア、ビーム	
相撲場	土俵2面	
卓球室	卓球台8台	
ミーティングルーム	仕切り壁あり	
幼児体育室	幼児の自由遊び	
レクリエーションホール	ヨガ、ダンス等	
会議室	第1、第2	
研修室		
管理事務室		

生涯学習センター			
既存諸室機能		備考	**周辺施設との機能調整**
【体育施設】	体育室		
	温水プール		→隣接する調布市内で東京都が提供しているほか、市内でも民間事業者で提供されている
	トレーニング室		→市内でも民間事業者で多く提供されている
	ミーティング室		
【その他】	保育室		
	管理事務室		
【図書館】	図書館		

調布市にある武蔵野の森総合スポーツプラザのプール（東京都施設）
→府中駅から京王線4駅、車で10分程度

出所：施設HP

d-1.アリーナ用途・規模①アリーナタイプ（形状と仕様の特性整理）

- アリーナタイプは主要用途に応じて、3つのタイプを設定しました。
- 主要用途に応じて形状や仕様が異なり、主要用途以外を利用する場合の留意点があります。

アリーナタイプ	①スポーツ利用型（総合体育館）	②多目的利用型（アリーナ）	③兼用利用型（シアターアリーナ）
主要用途	アマチュアスポーツ、プロスポーツ	プロスポーツ、コンサート、MICE	プロスポーツ、コンサート、MICE
施設形状	スポーツを「する」空間で競技者視点を重要視した施設形状	スポーツやコンサート等の興行イベントを「みる」空間で来場者視点を重要視した施設形状	音楽イベントにおいて見切り席が最小限になるよう劇場のようにステージ位置を固定した施設形状
観客席形状	ロ型観覧席	ロ型観覧席	U型／扇形観覧席
床仕様	木製フローリング床	土間コンクリート（スポーツ利用時は木製ポータブルフロアを設置）	土間コンクリート（スポーツ利用時は木製ポータブルフロアを設置）
特殊設備	興行に必要な最小限の設備	映像音響設備、昇降トラス、吊り金具	映像音響設備、昇降トラス、吊り金具
主要用途以外を利用する場合の留意点	• コンサート利用の場合は、床を養生し、ステージや映像音響設備を設置する必要がある。 • プロスポーツ利用の場合は、仮設のVIPスペースや映像音響設備を設置する必要がある。	• アマチュアスポーツ利用及びプロスポーツ利用の場合は、木製ポータブルフロアを設置する必要がある。 • キャパを維持してコンサート利用する場合は、センターステージを設置する必要がある。	• アマチュアスポーツ利用及びプロスポーツ利用の場合は、木製ポータブルフロアを設置する必要がある。
参考事例	 富士市新総合体育館／施設サイトより	 ゼビオアリーナ仙台／B.LEAGUEサイトより	 横浜BUNTAI／施設サイトより

d-2.アリーナ用途・規模②規模の設定

- 入場可能数、フロアサイズ、必要諸室、客席形状についての情報を整理し、条件を満たすコンパクトなメインアリーナの規模として、各タイプにおいて規模の設定を行いました。
- スポーツ利用型の最小案を「最小」、多目的利用型の最大案を「最大」として選定します。兼用利用型は、コンサート利便性を高めた仕様として、パターン選定はしないものの、機能検討の視野に入れます。

入場可能数

- プロリーグを満たす入場可能数（3,000席）
- B.PREMIER等のホームアリーナ基準を満たす入場可能数（5,000席）

フロアサイズ

- 全てのプロリーグを満たす最小の実績値（1,600㎡）
- 全てのプロリーグを満たすアリーナ標準の値（1,900㎡）
- 他アリーナ事例平均を満たす値（2,500㎡）

必要諸室

- バレーボール及びバスケットボールのホームアリーナ検査要項を満たす必要諸室を参照
- 市民ニーズの調査結果反映

客席形状

- スポーツ利用に特化したロ型形状のレイアウト
- コンサート利用に対応したU型形状（又は扇型）のレイアウト

項目	①スポーツ利用型（総合体育館）		②多目的利用型（アリーナ）		③兼用利用型（シアターアリーナ）	
概要・あり方	「する」スポーツに加えて、「みるスポーツ」の環境を取り入れたスポーツ利用のみに特化した施設		スポーツやコンサート利用等の多目的利用に対応した施設（仮設の座席割合が多い→見切り席が多くなるためフロアサイズを広くする）		可能な限りフロアサイズを縮小し、固定の観客席を増やしてプロスポーツやコンサートの「みる」環境を充実化させた劇場型の施設	
客席形状	ロ型		ロ型		U型／扇形	
規模（床面積）	**最小案**	**最大案**	**最小案**	**最大案**	**最小案**	**最大案**
入場可能数	3,000席	5,000席	3,000席	5,000席	5,000席	5,000席
フロアサイズ	1,900㎡	1,900㎡	2,500㎡	2,500㎡	1,600㎡	1,900㎡

e-1.主な市民ニーズの整理

- 市民アンケート・競技団体アンケートから得られた主な意見や示唆を抽出し、諸室構成や諸室規模を検討する上での考え方を整理しました。
- また、競技団体アンケートにおいて各団体が希望する面積のデータを次ページで整理しています。

諸室	既存規模	主な意見や得られた示唆	諸室構成・規模の考え方
トレーニング室	400㎡	・マシンが少ないので充実させてほしい	民間施設との機能分担について検討
武道場	495㎡、柔道他 495㎡、剣道他	・柔道場2~4試合分の広さを希望 ・競技スペース256~360㎡を希望 ・現状～現状の1.5倍程度を希望	試合用・練習用の規模の検討
弓道場	和弓(10人立)、洋弓(5的)	・遠的もできるようにしてほしい	最大規模での遠的対応を検討
キッズスペース	100㎡、幼児の自由遊び	・キッズスペースを備えることで子育て世代の利用を促進	子育て世代の利用促進に向けて規模・機能を充実させることを検討
飲食スペース・付帯機能	レストラン約200㎡	・食事や休憩、勉強・読書などの多目的に利用できるスペースを併設することで、施設利用が促進され、運動・スポーツへの親しみやすさが醸成される ・天気の悪い日にも訪れたいと思わせる工夫をすると、利用が促進される ・１人で運動できるスペースを用意し、スポーツがあまり好きでない市民の利用を促進する	飲食スペースの他、多目的に利用したり、スポーツ利用を促進させる機能として、付帯機能のスペースを確保することが求められる （第2回協議会資料参照）

e-2.競技団体の希望する面積

- 競技団体の希望する面積として、各団体の回答内容を整理しました。

競技団体	①大会・イベント	② 練習用（理想）	② 練習用（最低限）	諸室規模への反映の考え方
	回答	回答	回答	
サッカー連盟	フットサル２面 （50m×60m）	25m×35m	25m×35m	**サブアリーナで1面を確保する規模の検討（約1,100㎡）**
剣道連盟	現在の第1体育室程度	—	現在の第２武道場	既存をベースに対応
卓球連盟	卓球台50台	—	卓球台８台	既存をベースに対応
ライフル射撃協会	エアライフル射撃場（射撃距離10m、8射座程度）	現在と同程度 （10m×10射座）	—	既存をベースに対応
テコンドー協会	9m×9m　４コート		9m×9m　４コート	既存をベースに対応
バスケットボール連盟	コート２面分	—	コート２面を余裕持って取れる程度	**サブアリーナで2面を確保する規模の検討（約1,400㎡）**
ダンススポーツ連盟	42m×36m 競技会場500㎡×2 本部席・選手待機500㎡	25m×35m	20m×35m	既存をベースに対応
バドミントン連盟	コート16面（現・総合体育館第一・第二体育室）	メイン：12面 サブ：６面	10面 （総合選手権）	**サブアリーナで10面を確保する規模の検討（約1,200㎡）**
柔道連盟	試合会場と柔道場分 50畳×２	50畳×4	50畳×2	既存をベースに対応
なぎなた連盟	12m×12m１面 周囲に2mずつの余白	20m×18m	16m×16m	既存をベースに対応

e-2.競技団体の希望する面積

- 競技団体の希望する面積として、各団体の回答内容を整理しました。

競技団体	①大会・イベント	② 練習用（理想）	② 練習用（最低限）	諸室規模への反映の考え方
	回答	回答	回答	
バレーボール連盟	６・９人制コート３面 ジュニアコート３面	男子コート１面 女子コート１面 及びフリーゾーン	男子コート１面 及びフリーゾーン	**サブアリーナで練習用（男子・女子・ﾌﾘｰｿﾞｰﾝ）を確保する規模の検討（約1,200㎡）**
居合道連盟	現在の第２武道場以上	第２武道場の1.5倍	現在の第２武道場	既存をベースに対応
相撲連盟	4.9坪≒16.17㎡の円形	—	—	既存をベースに対応
ハンドボール連盟	コート３面	コート２面	コート１面	**メインアリーナで2面を確保する規模（約2,500㎡）、サブアリーナで1面を確保する規模の検討（約1,400㎡）**
空手道連盟	コート４面	コート４面 16m×16m	コート４面 15m×15m	既存をベースに対応

４．複数案の提示

指標による分析のまとめ

- 各指標による分析結果を一覧化し、機能集約において考慮すべき情報を整理しました。

基本諸室構成	指標					備考
	a.稼働率	b.マルチ対応可能性	c.周辺施設の供給バランス	d.アリーナ用途・規模	e.市民ニーズ	
メインアリーナ				規模・タイプの設定		
サブアリーナ					諸室規模検討	
トレーニング室			周辺施設		諸室機能検討	
武道場１		集約可能性			諸室規模検討	
武道場２		集約可能性			諸室規模検討	
弓道場		集約可能性			諸室規模検討	
エアーライフル場	低稼働					
相撲場	低稼働					
卓球室		集約可能性				
ミーティングルーム	低稼働	集約可能性				
キッズスペース	低稼働				諸室機能・規模検討	
スタジオ		集約可能性				
会議室		集約可能性				
研修室	低稼働	集約可能性				
図書館						
温水プール			周辺施設			
飲食スペース					諸室機能検討	
管理事務室						
付帯機能					諸室機能検討	新たな付加価値機能
防災機能						避難所規模算定

諸室構成パターンの設定

- 諸室構成の集約の考え方を整理し、基本諸室構成による「**基本型**」、効率的・効果的な整備を見据えて一部諸室を集約した「**集約型**」の2つのパターンを設定します。

基本諸室構成	諸室構成の集約の考え方	
メインアリーナ	維持	dの指標から、「みる」スポーツの規模・機能を検討
サブアリーナ	維持	eの指標から、規模・機能について検討
トレーニング室	維持	cの指標から、諸室設定はするが規模・機能について検討
武道場１	マルチ	bの指標から、マルチスペース活用を検討
武道場２	マルチ	bの指標から、マルチスペース活用を検討
弓道場	維持	bの指標から、半屋外等の配置上の工夫を検討
エアーライフル場	マルチ	aの指標から、マルチスペース活用または屋外対応性を検討
相撲場	マルチ	aの指標から、マルチスペース活用または屋外対応性を検討
卓球室	マルチ	aの指標から、マルチスペース活用を検討
ミーティングルーム	マルチ	bの指標から、マルチスペース活用を検討
キッズスペース	維持	市民ニーズを受けて規模・機能を検討
スタジオ	マルチ	bの指標から、マルチスペース活用を検討
会議室	マルチ	bの指標から、マルチスペース活用を検討
研修室	マルチ	aの指標から、会議室等の併用としマルチスペース活用を検討
図書館	-	機能として追加、適切な配置・規模について検討
温水プール	維持	cの指標から、今後の学校授業受け入れの可能性を考慮し、機能として追加、規模・機能について要検討
飲食スペース	維持	市民ニーズを受けて規模・機能を検討
管理事務室	維持	必要な機能として諸室として維持
付帯機能	-	市民ニーズを受けて新たな付加価値として設定（第3回協議会資料参照）
防災機能	-	避難所としての機能を設定

諸室構成【基本型】
メインアリーナ
サブアリーナ
トレーニング室
武道場１
武道場２
弓道場
エアーライフル場
相撲場
卓球室
ミーティングルーム
キッズスペース
スタジオ
会議室
研修室
図書館
温水プール
飲食スペース
管理事務室
付帯機能
防災機能

諸室構成【集約型】
メインアリーナ
サブアリーナ
トレーニング室
マルチスペース１
マルチスペース２
マルチスペース３
弓道場
キッズスペース
図書館
温水プール
飲食スペース
管理事務室
付帯機能
防災機能

諸室規模パターンの設定

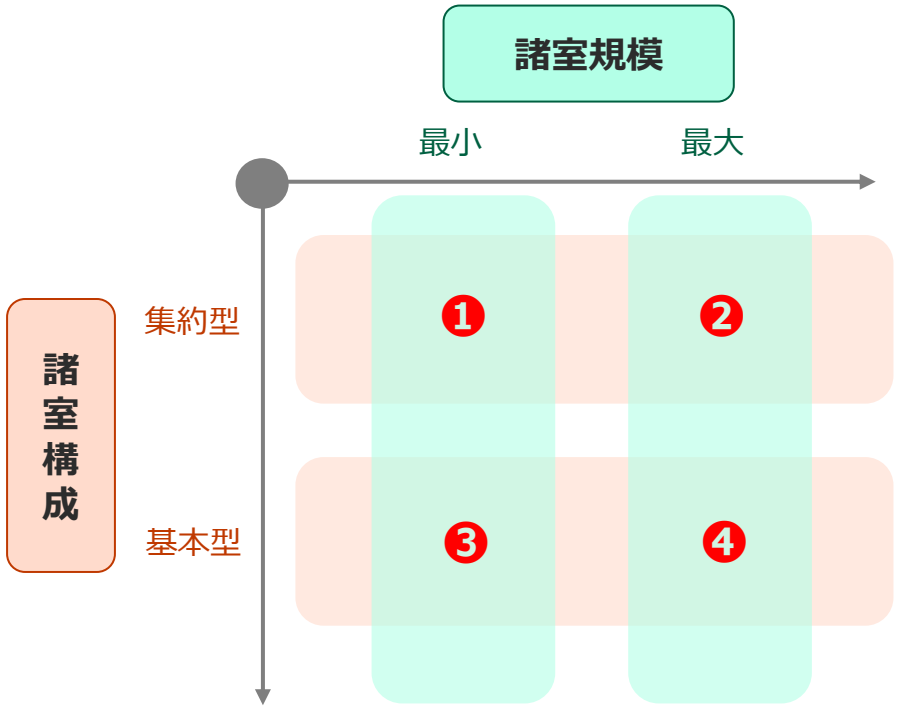
- 諸室規模については、指標に基づき、各諸室に対して**最小・最大**の2つのパターンを設定します。

基本諸室構成	諸室規模の考え方	諸室規模	
		最小	最大
メインアリーナ	dの指標に基づき、スポーツ利用型の最小案と多目的利用型の最大案を設定	3,000席・1,900㎡	5,000席・2,500㎡
サブアリーナ	競技団体の面積要望を受けて規模・縦横比の設定（競技レイアウト参照）	1,462㎡	1,800㎡
トレーニング室	cの指標に基づき、最小において縮小パターンを設定	300㎡程度	400㎡程度（郷土の森既存）
武道場１	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
武道場２	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
弓道場	eの指標に基づき、最大において遠的対応とする	和弓・洋弓（郷土の森既存）	既存＋遠的追加
エアーライフル場	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチまたは屋外対応検討	郷土の森既存ベース	
相撲場	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチまたは屋外対応検討	郷土の森既存ベース	
卓球室	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
ミーティングルーム	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
キッズスペース	eの指標に基づき、最大において拡大パターンを設定	100㎡（郷土の森既存）	200㎡
スタジオ	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
会議室	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
研修室	諸室基本型では既存ベース、諸室集約型ではマルチ対応	郷土の森既存ベース	
図書館	既存ベース（生涯学習センター図書館）とする	生涯学習センター図書館既存ベース	
温水プール	公立学校の受け入れを考慮	大プール25m×12m、小プール12.5m×6m	
飲食スペース	既存ベースとする	郷土の森既存ベース	
管理事務室	既存ベースとする	郷土の森既存ベース	
付帯機能	市民ニーズを受けて新たな付加価値として設定（第3回協議会資料参照）	–	
防災機能	避難所機能(メインアリーナ以外で2,339人以上の収容を確保)	避難所機能に充当する諸室内訳と収容人数を整理予定	
マルチスペース１	柔道・剣道兼用【スポーツ木床】	類似施設等に基づき 495㎡ と設定	
マルチスペース２	球技・スタジオ・柔道など利用可能【スポーツ木床】	類似施設等に基づき 495㎡ と設定	
マルチスペース３	球技・会議・研修など利用可能（小割可能）【ビニル床】	類似施設等に基づき 217㎡ と設定	

複数パターンの設定について

- 諸室構成軸と諸室規模軸のパターン設定に対して、以下の検討マトリックスに基づき、❶～❹の**4パターンを複数案として設定**します。
- 最小❶～最大❹の間において、概ねの施設規模の想定を図るものとします。

検討マトリックス



❶ 諸室集約型＋最小規模

❷ 諸室集約型＋最大規模

❸ 諸室基本型＋最小規模

❹ 諸室基本型＋最大規模

複数案❶～❹の設定

- 複数案としてパターン❶～❹の諸室構成・諸室規模と想定延床面積を算定しました。
- 設定した複数案においては、延床面積が概ね17,000㎡～28,000㎡程度の規模となる想定です。

パターン❶	
諸室構成【集約】	最小規模
メインアリーナ	3,000席(プロリーグを満たす規模) 1,900㎡
サブアリーナ	1,462㎡
トレーニング室	300㎡
マルチスペース１	495㎡
マルチスペース２	495㎡
マルチスペース３	217㎡
弓道場	1,032㎡ 和弓、洋弓
キッズスペース	100㎡
図書館	497㎡
温水プール	976㎡
飲食スペース	200㎡
管理事務室	153㎡

→延床面積：約17,000㎡

パターン❷	
諸室構成【集約】	最大規模
メインアリーナ	5,000席(Bプレミア等ホームアリーナ基準) 2,500㎡
サブアリーナ	1,800㎡
トレーニング室	400㎡
マルチスペース１	495㎡
マルチスペース２	495㎡
マルチスペース３	217㎡
弓道場	1,427㎡ 和弓、洋弓＋遠的
キッズスペース	200㎡
図書館	497㎡
温水プール	976㎡
飲食スペース	200㎡
管理事務室	153㎡

→延床面積：約25,000㎡

パターン❸	
諸室構成【基本】	最小規模
メインアリーナ	3,000席(プロリーグを満たす規模) 1,900㎡
サブアリーナ	1,462㎡
トレーニング室	300㎡
武道場１	495㎡
武道場２	495㎡
弓道場	1,032㎡ 和弓、洋弓
エアーライフル場	234㎡
相撲場	277㎡
卓球室	360㎡
ミーティングルーム	48㎡
キッズスペース	100㎡
スタジオ	377㎡
会議室	第1=56㎡、第2=57㎡
研修室	56㎡
図書館	497㎡
温水プール	976㎡
飲食スペース	200㎡
管理事務室	153㎡

→延床面積：約20,000㎡

パターン❹	
諸室構成【基本】	最大規模
メインアリーナ	5,000席(Bプレミア等ホームアリーナ基準) 2,500㎡
サブアリーナ	1,800㎡
トレーニング室	400㎡
武道場１	495㎡
武道場２	495㎡
弓道場	1,427㎡ ＋遠的を追加
エアーライフル場	234㎡
相撲場	277㎡
卓球室	360㎡
ミーティングルーム	48㎡
キッズスペース	200㎡
スタジオ	377㎡
会議室	第1=56㎡、第2=57㎡
研修室	56㎡
図書館	497㎡
温水プール	976㎡
飲食スペース	200㎡
管理事務室	153㎡

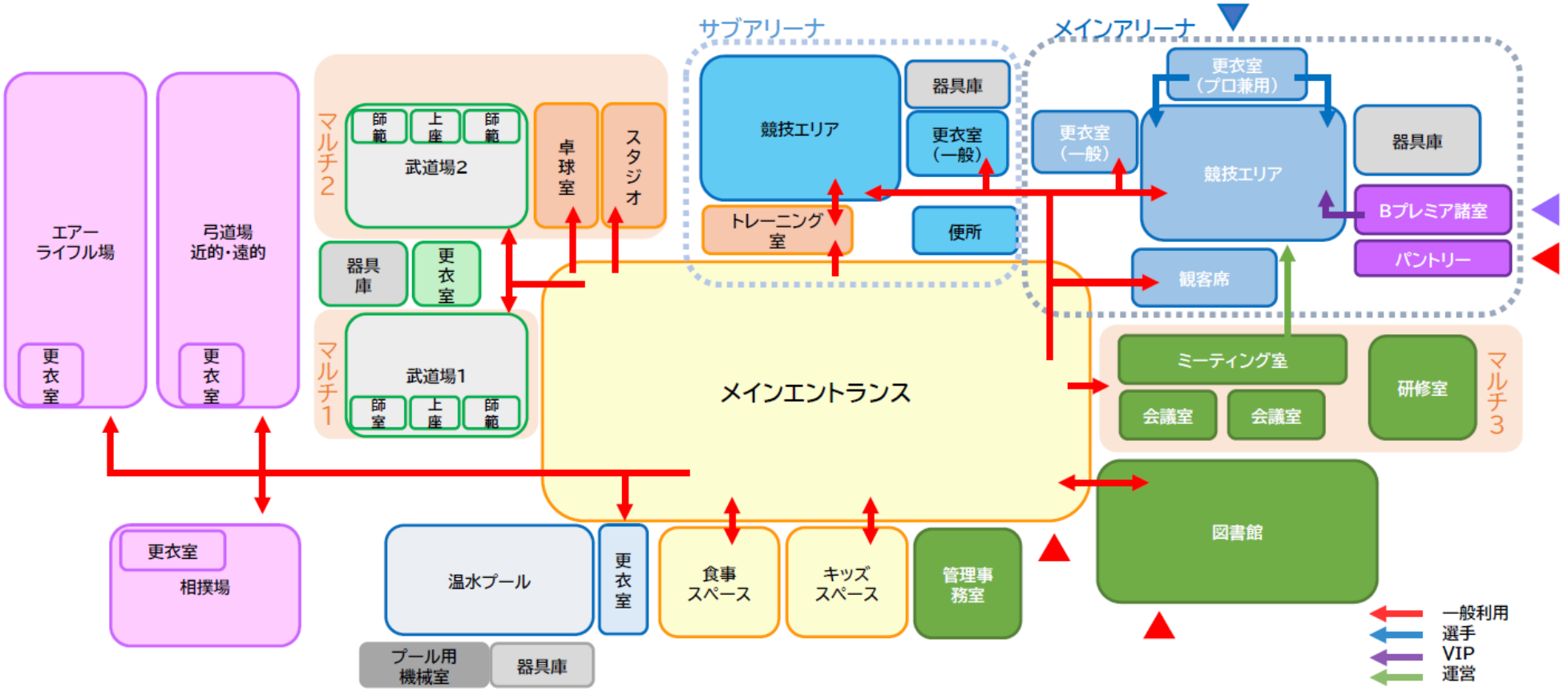
→延床面積：約28,000㎡

※延床面積には付帯諸室や共用面積を含みます。
※メインアリーナの席数には仮設席を含みます。

５．参考イメージ

参考｜機能相関図による整理

- 各諸室の動線や接続、位置関係の考え方を整理するために機能相関図を作成しました。



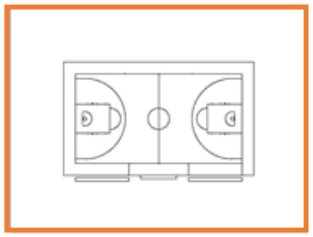
参考｜メインアリーナの競技レイアウト（最小）

- メインアリーナの競技レイアウト（最小）です。面積＝1,900㎡。

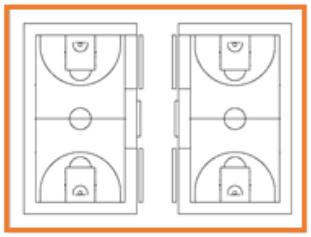
【 最小　1,900㎡ 】
50.0m　x　38.0m

フットサルコート
ハンドボール兼用サイズ
（40mx20m）（35mx25m）協会要望可

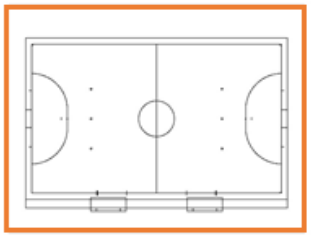
バスケットボール
センターコート



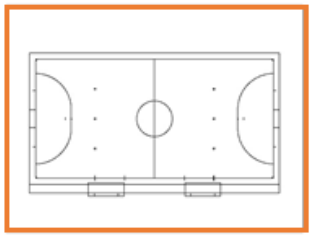
バスケットボール
2面



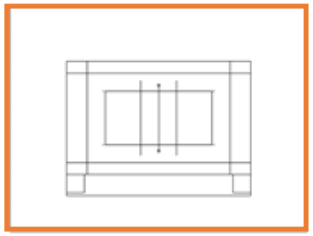
フットサル
センターコート



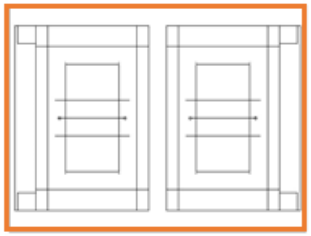
ハンドボール
センターコート



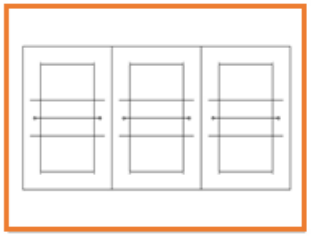
6人制バレーボール
センターコート



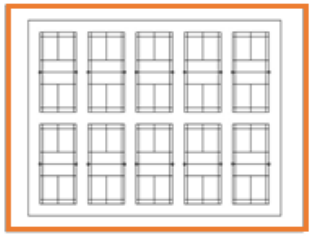
6人制バレーボール
2面



6人制バレーボール
3面(市民利用) ※1



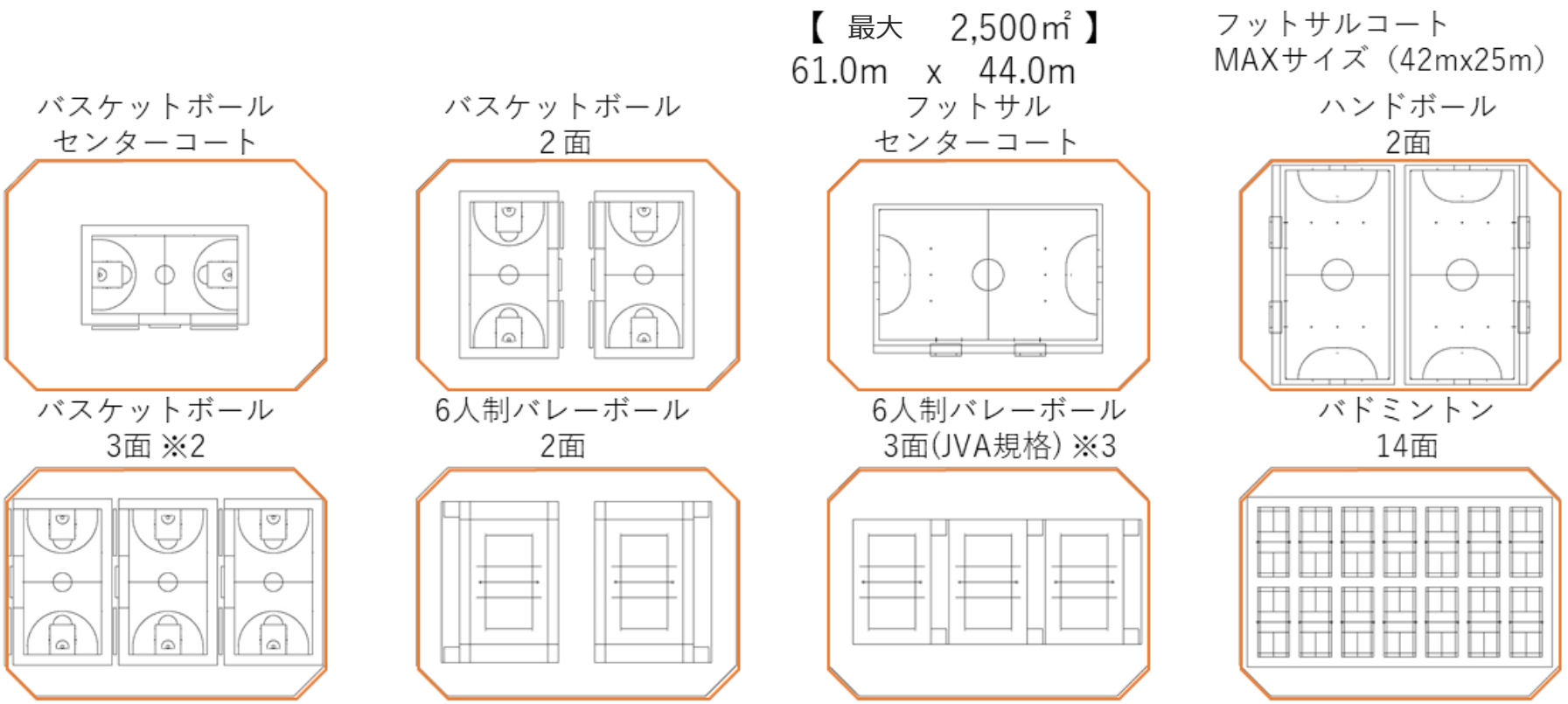
バドミントン
10面



※1：大会はベンチエリアが不足するため不可。

参考｜メインアリーナの競技レイアウト（最大）

- メインアリーナの競技レイアウト（最大）です。面積＝2,500㎡。

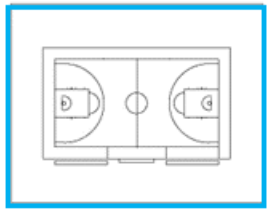


※2：旧国体規程ではコート間7mが望ましい。現規程では明記無し。ベンチゾーンの規定はないが、大会毎に確認が必要。
※3：国内規程であれば３面可能。世界大会規定(FIVA)ではフリーゾーンがサイド5mとなる為不可。

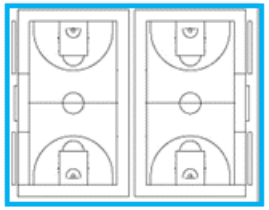
参考｜サブアリーナの競技レイアウト（最小）

- サブアリーナの競技レイアウト（最小）です。面積＝1,462㎡。
- 各競技団体の要望を満たす最小値として、ハンドボール1面・バスケットボール2面を配置可能な面積・縦横比として設定しました。

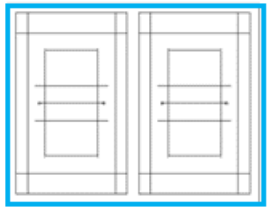
バスケットボール
センターコート



バスケットボール
2面



6人制バレーボール
2面

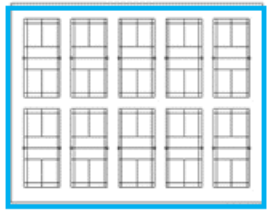


【 最小　1,462㎡ 】
43.0m　x　34.0m

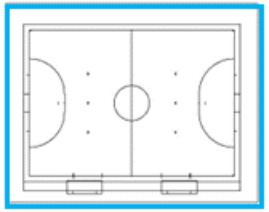
長手：ハンドボールコート寸法
（40m+余白1.5m×2）を確保

短手：バスケコート２面を確保
（コート縦28m+余白3m×2）

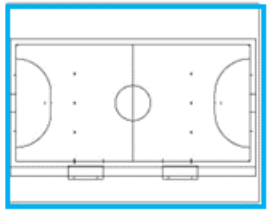
バドミントン
10面



フットサル
センターコート



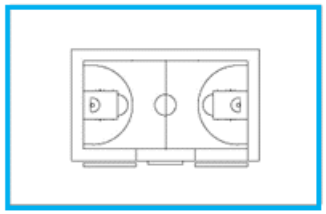
ハンドボール
センターコート



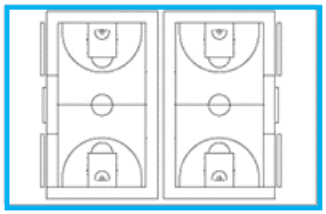
参考｜サブアリーナの競技レイアウト（最大）

- サブアリーナの競技レイアウト（最大）です。面積＝1,800㎡。
- 既存2施設の諸室（郷土の森総合体育館第2体育室と生涯学習センター体育室）の単純合計により、最大値として設定しました。

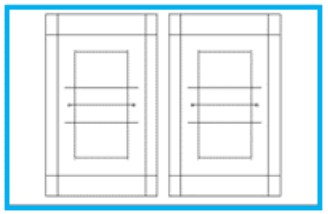
バスケットボール
センターコート



バスケットボール
2面



6人制バレーボール
2面

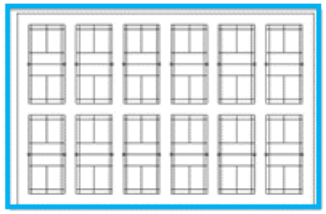


【 最大　1,800㎡ 】
53.0m　x　34.0m

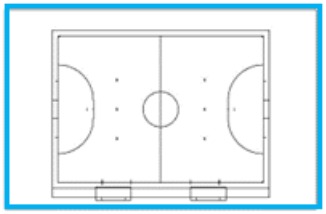
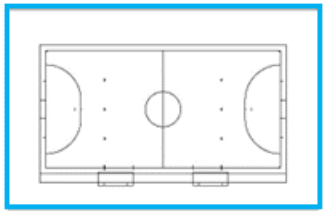
長手：バドミントン6面寸法
（50.6m+余白1.2m×2）を確保

短手：バスケコート2面を確保
（コート縦28m+余白3m×2）

バドミントン
12面



フットサル
センターコート



ハンドボール
センターコート